

すべての活動は 出会いに行く仲間づくり

東京・町田支部

会員500人を超える町田支部は、4月から、出会いの春、出会いの夏とくりくみ、5月で30人の仲間を迎えています。

「出会いに行く」って最高！



「主権者は私たち」「武力で平和はつくれぬ」「憲法を守れ」「9条守れ」とコールしてサルサでアピール(8月、町田駅前で)

町田支部が今年、心動かされ、活動のよりどころとしている「お気に入りのフレーズ」が二つあります。

その一つが、「出会いに行く仲間づくり」です。このフレーズが大のお気に入り。すべての活動はこれだと思っていました。

この間、毎月第1・3水曜日の定例宣伝や19日行動が「出会いに行く宣伝行動」となりました。宣伝では署名や新婦人しんぶん、ネ

会いもありました。

6月は街頭での宣伝に参加した会員が、知人から声をかけられ、10年ぶりの再会に。聞けば他県で新婦人の会

員だったと、「町田で入って」と誘って、会員が増えました。7、8月の19日ペンライト

宣伝ではサルサ小グループを踏みながらアピールしました。

もう一つ活動のよりどころとしているのが太田伊早子弁護士のことば。「社会を変える

ちの集まりです。平和を心底愛する女たち。

そして行動する女たちです」と新婦人の紹介スピーチ。70、80代が踊ったのでむっちゃ受け

て盛り上がりしました。若者が飛び入りで一緒に踊り、集会后に「新婦人のペンライトいいですね」と話しかけて

くれて、「ぜひ新婦人へ」とネクストカードを渡し、来月の再会を約束。その夜、その人が中央本部へ入会申し込みをされたのはびっくりしました。

新婦人には社会を変える力がある

には、自立した個人が集まる組織が必要。新婦人は社会を変える力がある。いま、新婦人のような組織が必要で、大きくする時です」との発言に、新婦人が会員を減らしていいのかと心が震え、力をもりました。

会員みんなと分かち合いたい、太田さん



班が参加する平和展に、お誘いしたゲストがたくさん

を講師に迎えた憲法カフェを開催、90席の会場が満杯でした。「今の情勢、『五つの目的』を持った新婦人の役割は大きい。仲間をふやそう」とエールをもらい、心がめっちゃ熱くなり、勢いをつけ、出会いの夏に突入できました。

夏は全班で1万7000枚のチラシを配り、「高校生の描いた原爆の絵」の平和展を9カ所で開催。305人

来場し、ゲスト123人、平和関係者6人の仲間が増えました。

各会場、班独自の企画を相談し合って、班が運営から参加したことで、班内の信頼も強まりました。班のチラシは何枚配るかも相談して配布、掲示板への展示などで地域に新婦人を知らせる機会になりました。

平和展当日はどこでもゲストの参加があり、班の交流もできました。

例年ノンビリした8月も仲間が増え、初めて「前進月」となり、支部は会員の前大会時現勢回復まであと14人20部まで迫っています。

出会いの秋は9班が体験会を予定。年内回復・突破に向けて班と一緒に、出会いに行く仲間づくりを広げていきます。(支部長 沢田シツ枝)

主張

物価高が続く、食費や光熱費を切り詰めても、暮らしへの不安がぬぐえません。高市政権のもと軍事費は過去最高、物価対策は財源なし・2年間限定の食料品の消費税減税だけです。

来年度予算案に向けて各省庁が財務省に提出した概算要求は、総額143兆円

を超え過去最大です。高市政権の「成長戦略」を進める予算、財界の求める17の戦略分野の新たな投資枠に約12兆円を注ぎ込む内容となっています。概算要求として過去最高の軍事費8兆8900億円

新婦人「秋の行動」 私の要求を 自治体や国に届けましょう

は、今後の「安保3文書」改定を受け、10兆円を超すと見られます。災害への備え、医療や介護、子育て、教育など、今こそ暮らしの分野に思い切った予算を配分すべきです。

春には統一地方選挙が控えています。国の予算を変えよう求めると同時に、支部や班でも、秋の行動署名をきっかけに暮らしや平和、身近な要求を出し合い、議会や自治体へ要望しましょう。まわりの女性たちと対話やおしゃべりをひろげ、一緒に行動する新しい仲間をむかえていきましょう。

新婦人が1980年から、一人ひとりの願いを持ち寄ってくりくみできたのが「秋の行動」です。毎年、「軍事費の増額ではなく、暮らしを守る予算を」と全会員の運動としてくりくみ、今年も「税

大規模な炭鉱事故が



北炭に抗議と要請を

も行いました。

炭鉱で一番危険な作業は下請け労働者が担っていました。働いた分の給料は半月〜1カ月遅れで支給されるため、前借りで生活し、給料が出たら返済を繰り返していました。

新鉱の事故後、多くの下請け鉱夫が退職金もないまま放り出され、「今日食べるものがない」状況に。夫はその人達の相談にのり、組合への加入を勧め、時には身銭を切って支援しました。

新婦人にもたくさんの女性に入ってもらい、読者は800人ぐらいいに。でも夕張には仕事がなく、やがて離れていきました。つづく

聞き書き 母の歴史

北海道 久世公子さんのお話

(7)

「子どもに海を見せてやりたい」という声で班で上がり、バスを借り切り、海水浴に行きました。子どもたちは車内から「海が見える!」と大はしゃぎ。海の家を一角を借りてみんなでおいしさを食べ、楽しい一日を過ごしました。この年に一度の楽しみは数年続き、石狩浜、小樽や日高にも行きました。

北炭夕張炭鉱のガス爆発(1965年)以降も夕張では崩落やガス爆発など事故が続き、その都度、炭鉱の閉山で人口減少が止まりませんでした。

81年、北炭夕張新鉱で93人が犠牲となった戦後3番目の大事故が発生。全国の新婦人からコンテナいっぱい支援物資や支援金が届き、遺族や入院した人を訪問して届け、会社への抗議、要請行動